



## 平成24年度 弥生校下成人式

平成25年1月13日  
於：ホテル日航金沢

### 式辞(抜粋)

弥生公民館 館長  
山本 茂

ゆく河の流れは絶えずして、しかも元の水にあらず・・・。

方丈記の有名な冒頭の一文です。時というものは一瞬たりとも立ち止まらずに進み続けています。世の中も人の心も刻々変化の中にあります。

一昨年の東日本大震災からはや二年になろうとしています。風化させてはいけない大災害の記憶ではありますが、逆説的ですけども、人の悲しみや記憶というものが徐々に薄らいでいくものであるからこそ我々は前に進めるのだとも言えます。

二十代の前半、私は大きな悲しみを伴った絶望感の中にいた時期がありました。しかし、心を内側へ向ける事を止め、心を外へ向けはじめ半年が経ち、一年が経ち・・・ようやく立ち直っている自分に気がつき、時の流れというものには悲しみを癒してくれるものなのだと思います。

未来へ繋がる痛みならば受け止めて、それを経験にして未来へ向かえればいい。しかし、過去を引き摺る痛みならば、記憶の片隅にしまいこもう。しかしその痛みも又人生における大切な糧の一つとなり得るのです・・・と。

### 祝辞(抜粋)

町会連合会 会長  
相川久嗣

新成人の皆さん、今日という晴れの日を迎えられ、心からお慶び申し上げます。

私は泉中学校でまたま放送部に入ったことで、将来は新聞社か放送局で働きたいという目標ができ、大学は新聞学科に進学しました。念願かなって新聞社に就職できたものの、実社会では大学で学んだ専門教科は余り役立ちませんでした。ただ、一つだけ以後の私の人生を支えてくれた人生訓を学びました。それは「真実を恐れるな」ということです。人間というのは、自分を格好良く見せたいと背伸びしがちです。できないことをさもできるように錯覚しがちです。だけれどもその時々自分の身の丈のことしか実際にはできないのです。

新聞記者時代、思うような記事を書けないで悩み、長く悩んだ末に、ある時ふと気がきました。今すべきことは、自分の持っている実力をだしきるよう努力することだ。要は自分の身の丈を知り、その中で精いっぱい努力することが、結果的にステップアップにつながると思知りました。「真実を恐れるな」です。

どうか皆さんには自分の今ある姿を直視し、現実と真摯に向き合う中で一歩でも高みに上がるよう努力する人間になっていただきたいとお願ひし、祝辞と致します。